



気象台のお仕事

天気相談所四季折々(冬編)

大阪管区気象台 気象防災部 予報課
天気相談所 有本 敏雄

2 季節毎の特徴的な問い合わせ事項(10月号より続き)

(4)冬(12月~2月)

・冬型の気圧配置

低気圧が日本海や近畿地方の南の海上を東進して日本の東海上で発達する一方、大陸から優勢な高気圧が張り出すと、日本列島は西に高気圧、東に低気圧があるいわゆる「西高東低」の冬型気圧配置(図6に例を示します)となります。

一般的に、冬型の気圧配置の場合、日本海側では風が強く、天気が悪くなります。一方、太平洋側では風は強いものの天気は概ね晴れて、空気が乾燥します。また、大陸から強い寒気が入ることにより気温が低くなり、日本海側では大雪となります。このことから、日本海側では冬型の気圧配置となると「弁当忘れても傘忘れるな」との俚諺が生まれています。

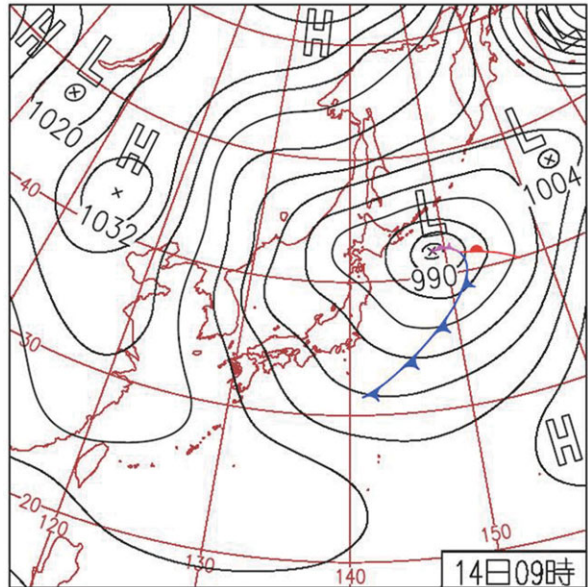


図6：冬型気圧配置の地上天気図
2012年11月14日(この年伊吹山が初冠雪した日)

・冬日、真冬日

冬日は日最低気温が0℃未満、真冬日は日最高気温が0℃未満の日をいいます。近年は日最低気温が上昇傾向にあり、冷え込む日が減っています。

1920年以降の統計によると、大阪市における冬日、真冬日の初終日の最等々の記録はそれぞれ表4のとおりとなっていますが、1883年以降で真冬日になったのは1936年の1回しかありません。

